

2008年1月22日

ご参考資料

HSBC 投信株式会社

世界的な株式市場の下落について

1月21日の世界株式市場は全面安の展開となり、アジア市場はインド、中国、香港市場上場の中国株の下げが厳しく(下記表参照)、また同日、欧州もドイツの DAX 指数が前週末比で 7.2%、英国の FT100 指数が同 5.5%、フランスの CAC40 指数が 6.8%、ロシアの RTS 指数が 7.4% 各々下落しています。この主因としては、米国でのサブプライムローン(信用力の低い個人向け住宅融資)問題に端を発した世界的に根強い金融不安と、18日にブッシュ米大統領が明らかにした緊急景気刺激策に対する失望感などが挙げられます。こうした中、キャリートレード(金利の低い通貨で資金調達し、金利の高い通貨で運用して利ざやを稼ぐ手法)の解消と見られる円買いが進行し、円が主要通貨に対して大幅に上昇するなど、「リスク資産」を圧縮して米国債などの比較的安全とみなされる資産に投資資金が逃避する動きが強まっています。

アジア主要国・地域株式市場の騰落率

	1月21日終値	前週末比	変化率
日経平均株価指数	13,325.94	-535.35	-3.86%
上海総合指数	4,914.44	-266.08	-5.14%
H株指数	13,531.45	-1,029.87	-7.07%
レッドチップ指数	5,178.95	-278.84	-5.11%
台湾 加権指数	8,110.20	-74.45	-0.91%
韓国総合株価指数	1,683.56	-51.16	-2.95%
SENSEX30種(インド)	17,605.35	-1,408.35	-7.41%
タイ SET 指数	766.53	-23.14	-2.93%

出所:ブルームバーグ

2 ページ目における「当資料のお取り扱いにおけるご注意」を必ずお読みください。

2008年1月22日 臨時レポート

日欧米の主要金融機関は、保有するサブプライムローン関連金融商品の大幅な評価損を計上していますが、市場動向によっては今後も損失額が拡大する可能性もあり、現在は信用収縮に対する不安が払拭できない状況にあります。また、最近発表された米国の12月小売売上高や住宅着工件数などの経済指標は米国景気の減速を示唆しており、米経済に対する先行きの不透明感が強まっています。こうした中、ブッシュ大統領は、消費刺激のための所得税減税と企業に対する設備投資減税を柱とする景気対策を検討しており、1月28日に行われる一般教書演説までに具体策をまとめる方針です。また、バーナンキFRB(米連邦準備理事会)議長も利下げの実施を示唆しており、今後は米国が信用収縮懸念を払拭し、景気後退を回避するために実施する財政・金融政策に焦点が当てられる展開となりそうです。

アジアを含む新興国の市場も世界的な市場混乱の余波を受けた形ですが、中国などでのインフレの進行や米国経済の減速による輸出減少など懸念材料はあるものの、経済ファンダメンタルズは依然として堅調に推移しており、今回の世界的な市場混乱が収束し、米国経済のソフトランディングの見通しが出てくれば、中長期的には経済成長のポテンシャルを評価した市場展開に戻る可能性があると考えられます。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

当資料は、HSBC投信株式会社(以下、当社と言います)が情報提供を行う目的で作成したものであり、特定の投資信託等の売買を推奨・勧誘するものではありません。当資料は法令に基づく開示書類ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料に記載された市場の見通し等は作成時点での当社の見解であり、今後予告なしに変更されることがあります。また、当資料に記載された当社の見解等は、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。